

海と都をつなぐ 若狭の往来文化遺産群



国宝の
三重塔と本堂

明通寺は、小浜市門前にある真言宗御室派の寺院。大同元年(806)に北陸地方を巡行中の坂上田村麻呂が創建したと伝えられている。鎌倉時代の本堂と三重塔が国宝に指定され、国の重要文化財に指定された仏像が複数ある

都の文化が形を変えて
今なお残る情緒深いエリア。

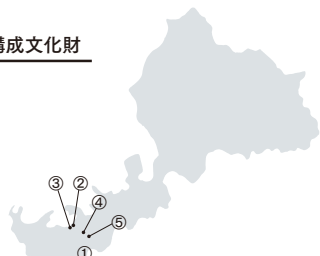
若狭地域は、古墳時代から約1500年、「御食国(みけつくに)」としての都の食を担ってきた歴史を持つエリア。塩や海産物などの豊かな資源を京都へ届けた街道群は、塩漬けにした鯖を運んだことから「鯖街道」の名称で呼ばれています。その起点である湊町・小浜は、奈良や京都につながる陸路と日本海からの海路が交わる港湾都市。国内外からの様々な物資や人、文化が集まり、室町時代初期にはソウヤクジャクなどを乗せた南蛮船も上陸するなど、国際的な港であったことも分かっています。都からの工芸や文化も伝わり、都の大寺社で奉納されていた「王の舞」や京都祇園の流れをひく「小浜放生祭」などの民俗行事が今でも催され、桃山時代に渡来した海外からの工芸技術が発展して工芸品・若狭塗のルーツとなるなど、地域に根付いて独自の進化を遂げました。

「鯖街道」の道々には街道松や道標、「熊川宿」などの宿場町、「若狭彦神社」「若狭姫神社」やお水送りで知られる「若狭神宮寺」などの歴史ある数々の寺社もあり、雅な都の文化とのつながりの深さが感じられます。鯖街道の中でも最も古いといわれる「針畑越え」のルートは若狭と京都を最短距離で結ぶもの。近年ではウォーキングやサイクリ

ングの人気スポットとなっています。

元々の鯖街道の起点は小浜藩主・京極高次によって整備された小浜市場。この市場の記録「市場仲買文書」に残る「生鯖塩して担い京に行き仕る」という一文が通称の由来という説もあります。若狭湾で獲れた鯖などの海産物は、都へ運ばれた後も美味しく食べられるよう「へしこ」や「なれずし」など加工技術が向上しました。京都ではハレの日に食べる習慣がある押し寿司の一種「鯖寿司」や、鯖を丸ごと二本豪快に焼いて出す「浜焼き鯖」など、1500年の歴史が育んだ味をご当地グルメとして楽しめるのも鯖街道の魅力なのです。

主な構成文化財



- ①鯖街道(針畑越え)/小浜市上根来他
- ②鯖街道MUSEUM/小浜市小浜広峰17-1
- ③小浜西組/小浜市小浜鹿島他
- ④若狭姫神社/小浜市遠敷65-41
- ⑤瓜割の滝/若狭町天徳寺37-1-3



右上/奈良と若狭の絆を深める歴史ある伝統行事、お水送り 右下/若狭路に伝わる中世の芸能として継承される王の舞 左上/魚の内臓をだして塩漬けし、さらに糠漬けする若狭の伝統料理へしこ 左中/小浜よっぱらいサバの新鮮なお刺身 左下/若狭と京都との交易の拠点として発展した宿場町・若狭鯖街道熊川宿



●公式HP
御食国若狭と鯖街道
小浜市・若狭町
日本遺産活用推進協議会



●公式HP
小浜まち歩き AUDIO GUIDE
[ON THE TRIP]

荒波を越えた 男たちの夢が紡いだ異空間



三国湊町家館は、福井藩三国湊で材木商を営んだ、新保屋・岸名惣助が住んでいた町家「旧岸名家」に隣接した観光案内所。北前船で栄えた三国湊のレトロな町並みの中心に位置し、観光情報や着物レンタルもあり

さまざまな文化が混じり合い
情緒あふれる港。

福井県の中でも三国や敦賀、小浜エリアは、現代でもそこかしこに湊町ならではの情緒があふれ、かつての貿易や交流の名残を伝える地域です。また日本に鉄道がない江戸から明治にかけての物流の中心は、内陸ではなく海路でした。藩同士の貿易は船を使って行われ、のちに商人や船主が船を使い、寄港地で商品を売買し、莫大な利益を上げるようになりました。主なルートは大阪から瀬戸内海を経由して日本海を北上し、蝦夷・樺太まで行く西廻りの航路です。北国の物資を運んでくることから、「北前船」と呼ばれるようになり、人や文化も各地に伝えました。福井県でも坂井市にその建造物が残る「旧森田銀行本店」の森田家や内田家、岸名家、南越前町の右近家、小浜市の古河家などの豪商が莫大な富を築き、多くのエピソードとともに各地の資料館で当時の面影を偲ぶことができます。

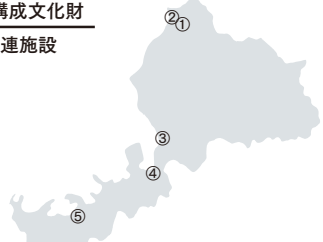
坂井市の「旧森田銀行本店」は大正期当時の日本の最先端の技術によるシックな古典主義的西洋建築で、国の登録有形文化財となっています。南越前町には「北前船主の館 右近家」が資料館として残り、別荘の西洋館は、1階はスパニッシュ風、2階はスイスの山小屋風の建築で館内のしつらえも見事です。敦賀市は北前船によってもたらされ

た財力の名残が、建築物や祭りの山車などの伝統文化に見られます。小浜市の「旧古河屋別邸(護松園)」は延床面積350平方メートルの2階建て数寄屋造りで、藩主などの賓客を迎える迎賓館として建造され、県指定有形文化財となっています。船主たちの痕跡を巡れば、心が浮き立つような北前船の物語や壮大な海路のロマンが感じられ、関わった人々が遺した品々からは当時の賑わいが聞こえてくるようです。



右上/小浜市北塩屋の県指定有形文化財「旧古河屋(ふるかわや)別邸(通称・護松園(ごしょうえん))」⑤ 右下/江戸～明治時代の北前船主の繁栄ぶりを偲ぶ町並み(河野北前船主通り)③ 左上/敦賀市に鎮座する、北陸道総鎮守 越前國一之宮 氣比神宮④ 左中/北前船主の館 右近家には北前船の模型や貴重な資料を展示③ 左下/北陸三大祭の一つ「三国祭」で町中を巡行する、巨大な人形山車(やま)

主な構成文化財 関連施設



- ①坂井市龍翔博物館/坂井市三国町緑ヶ丘4-2-1
- ②瀧谷寺/坂井市三国町滝谷1-7-15
- ③右近家住宅・中村家住宅/南越前町河野
- ④氣比神宮/敦賀市曙町11-68
- ⑤旧古河屋別邸(護松園)/小浜市北塩屋17-4-1



●公式HP
北前船寄港地・船主集落
北前船日本遺産推進協議会